



井原市の花 パンジー

井原市民病院だより

No.23

2013年2月発行

日本医療機能評価機構 病院機能評価Ver.6.0認定

地域とともに歩む、 より愛される病院を目指して



新しい年を迎えて

Mission (使命)

地域住民の尊厳を守り、命を守り、
健康増進を支援する

Vision (将来展望)

いつでも安心してかけられる、
身近で愛される急性期病院

今年のスローガン

チーム医療の推進

Ibaraki City Hospital

井原市立井原市民病院

〒715-0019 岡山県井原市井原町1186番地
TEL 0866-62-1133(代) FAX0866-62-1275(代)
E-mail byoin@city.ibara.okayama.jp

診療科目

内科・循環器内科・外科・整形外科・眼科・小児科
放射線科・麻酔科・耳鼻咽喉科・リハビリテーション科
婦人科・泌尿器科・皮膚科

発行責任者：山田 信行

「ナース頑張れ！ ドクターに負けるな」

井原市立井原市民病院
院長 山田 信行

皆様におかれましては、新たな抱負を持って新しい年をお迎えのことと存じます。市民ならびに職員の皆様方には日頃から井原市民病院の運営につき格別のご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年は金環日食、東京スカイツリーの開業、ロンドンオリンピックでの過去最多のメダル獲得、iPS細胞での山中教授のノーベル医学・生理学賞受賞と世の中の沈滞ムードを吹き飛ばすような明るい出来事に明日の活力をもらってきました。当院での出来事を振り返ってみますと、

1月：歯科衛生士による口腔ケアを開始。福山市民病院 循環器内科からの診療援助を開始。県境を越えた公的病院の人的連携として意義深く、患者の利便性も向上しました。

4月：平井副院長が就任。物事がスピーディーに動くようになりました。BSCの成果発表会を開催。お互いに病院内がよく見えるようになりました。平成23年度の決算が7年ぶりにわずかですが黒字となりました。

5月：駐車場整備工事を実施し、37台分を増加。

6月：岡山大学病院から初期研修医1名を1か月間迎えました。病院内に新しい爽やかな風が吹きました。365日リハビリテーションと訪問看護センター「まいつづる」の業務を開始。糖尿病看護認定看護師が誕生。

7月：岡本放射線技師が東京電力福島第一原発敷地内診療所で放射線量測定業務を行いました。

11月：高松で開催された第51回全国自治体病院学会で7演題を発表。第2回井原市民病院健康祭りを600名の参加を得て開催。「自然な死（尊厳死）を迎えたい方へ」と題して、黒瀬事業管理実践者から特別講演をいただきました。また救急隊・救急車にも参加をいただき、白衣とナースキャップを付けた子供たちが救急車内でV字サインを両手に大喜びで記念撮影を行うなど、有意義な催しとなりました。

昨年の当院のスローガンは「医療の標準化」と「断らない病院」でした。医療の標準化と質の向上は地域から信頼されるために欠かせませんし、救急医療の充実が地域住民にとっては何事にも代えがたい安心の源です。断らない医療と良質な医療の実践は、地域で生き残るうえで必須不可欠であり、引き続き、さらなる



向上を目指していこうと思います。

さて、今年は「チーム医療の推進」をスローガンにし、より質的に高い医療の推進と信頼を得られる病院づくりを行いたいと思います。すでに院内を越えて活躍している栄養サポート（NST）チームに加えて、呼吸リハ・在宅酸素チーム、糖尿病指導管理チーム、感染対策（ICT）チーム、緩和ケアチームなどの充実を図りたいと考えています。これらのチーム医療は、多職種が関与して行うことは勿論のことですが、常勤医が少ない中であっては、栄養士、看護師などがリーダーとなって推進していきたいと思います。ドクターを引っ張っていける活動を期待しています。さらに、院内を越えて目を向け、地域を巻き込んで活動し、地域住民の健康意識と健康度を少しでも高めることができるように、医師会の先生方にとっても役立つように、工夫を凝らしていきたいと思っています。今年巳の年、新しいステージに向かって脱皮しようと思います。

今年が皆様方にとって良き年でありますように祈念致しますとともに、引き続き地域に密着した、より愛される病院を目指しますので、皆様方の一層のご支援・ご協力・ご指導をいただきますようお願い申し上げます。



スタッフ会議のメンバー 『今年の抱負』



不満の渦巻く自国民の目を、豊かで浮かれて見えるわが国へ向け政治的急場をしのごうと、西から、北からわが国の海と土地をうかがう隣国の為政者、アルジェリアでの経済的階級抗争の盾として、砂漠の上でかけがえのない命を奪われた先進的行動派の同胞、そして何より繰り返してはならない震災への備え。今ほど自らの国日本を、存在の証である家族を、地域の大切さを再認識する世相環境は、かつてなかったようです。

さらに想いを一歩進めて、身近な職場の人々との信頼の輪が少しずつ膨らむように行動できればと思うのですが。。
事業管理実践者 黒瀬 康平

地域の基幹病院として50年を迎える年となりました。住民の方々に何時でも誰にでも声を掛けていただける親しみやすい病院でありたいと思っています。

職員の声を集めながら病院経営に反映し、誰もが安心して働く事が楽しいと思える病院になれるように役立ちたいと思っています。

「笑う門には福来る」

笑顔に優るおもてなしはないと思います。

副院長兼看護統括 平井千枝子

病院の使命は「患者さんを中心にした医療や地域医療機関から信頼される病院を目指し、医療の質の向上と医療連携を行う」という院長の思いを受け成果をあげてまいりました。

最近各職場や各医療チームからのボトムアップされた意見や提案が協議され、より良い病院となっています。

対外的には、医師会、医療機関、介護施設と連携をはかり、本院の高度な機器や診療科、医療技術部門の組織等の医療資源を更に利用、活用していただき、市民病院の役割が十分に果たせたらと思います。

副院長兼医療技術部長 細羽 俊男

今年の病院スローガンは「チーム医療の推進」です。

看護部は「チーム医療」のリーダーシップを「熱く語り発信しよう、看護の力」を合言葉にして、行っています。緩和ケアチーム、糖尿病ケアチーム、呼吸器ケアチーム、感染防止対策チームを看護部全員参加で、支え盛り上げてまいります。

已年の本年は「ぐるぐる」巻き固め、「キュッ」とチームを引き締める役割を担ってまいります。

看護部長 鳥越こずえ

「地域医療体制の充実」が求められる中、地域の中核病院として、常勤医師10名で病棟、外来、検査、当直の各業務を懸命に維持している実情です。

医師不足等については、市民病院だけで解決できる問題ではありませんが、市民病院に対する皆さんの期待に応えるべく診療部も頑張ります。

副院長兼診療部長 高山 二郎

井原市民病院は、昭和38年5月に開院し、今年で50周年を迎えます。開院以来、地域の中核病院として、皆様に支えられながら歩んできました。

医師不足をはじめとする昨今の地方自治体病院を取り巻く環境は大変きびしいものがありますが、市民病院に対する皆さんの期待と信頼にお応えするため、縁の下の力持ちとなれるよう事務部一丸となって頑張ります。

事務部長 北村 宗則



「第2回井原市民病院健康まつり」が無事終了いたしました。市民の皆様にご紹介したいという思いで昨年度から実施し、今回で2回目となりました。晴天にも恵まれ、約600名以上の方々のご来院のもとに盛大に開催することができました。

今年は井原消防署救急隊の方にも参加いただき、また、各部署の創意工夫が随所にみられ、一段ステップアップした健康まつりとなりました。参加いただいた方々からも喜びと賞賛をいただくことができ、病院と住民の皆様との距離をなくしていくことがいかに大切か、そういった積み重ねが住民から本当に信頼される病院づくりにつながる、ということを感じました。

この健康まつりが、参加いただいた皆様方の健康づくりに僅かでもお役に立てば何よりの喜びです。これからも地域に愛され、地域に望まれる医療の提供が出来る病院をめざし、より一層の努力をさせていただきますのでご協力をお願いいたします。



各部署の紹介コーナーへも多くの方にお越しいただきました。



ロビーコンサート 見事な演奏で華を添えていただきました。
野田先生もゲスト出演！



「自然な死（尊厳死）を迎えたい方へ」と題し黒瀬康平病院事業管理実践者に記念講演をいただき、「死」に対する考え・心得を深めることができました。



井原消防署救急隊の方も参加くださり、普段なかなか機会のない救急車内の見学や AED の使用方法の講習をいただきました。



全職員でいろいろなアイデアを出し合い、皆様をお迎えしました。

全国自治体病院学会 in 香川

会 期 平成 24 年 11 月 8 日 (木) ～9 日 (金)

会 場 サポートホール高松・香川国際会議場
他 (香川県高松市)

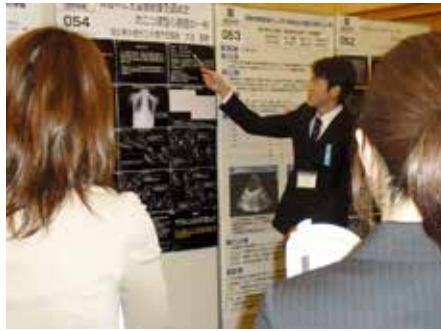
メインテーマ 「今こそ見せよう！自治体病院の底力
～地域に新たな架け橋を～」

【当院参加者】

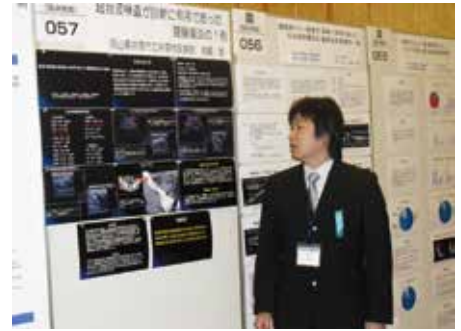
山田院長、平井副院長、北村事務部長、中村放射線科長、
太田臨床検査主任技師、岩崎臨床検査技師、西岡作業療法士、齋藤理学療法士、川淵認定看護師、森看護師



「重篤な血管外漏出事例を経験して
～安全なルート確保の検討～」
中村放射線科長



「経過中に左室壁肥厚を認め
たこつぼ型心筋症の一例」
太田臨床検査主任技師



「超音波検査が診断に有用であった
腹膜垂炎の 1 例」
岩崎臨床検査技師



「「申し送り」と「看護記録」による情報伝達状況の比較分析」
森看護師



「当院における訪問リハビリテーションの現状と課題」
西岡作業療法士



「高齢者に対する心臓リハビリテーションの効果～運動継続による心筋酸素消費量の変化～」
齋藤理学療法士



「在宅医療導入に向けた課題～地方病院における取り組み～」
川淵認定看護師

地域医療の今後

地域で生き残れる病院づくりとは

副院長兼看護統括

平井 千枝子

当院は、昭和38年5月に地域の基幹病院として開院し、平成16年2月に現地に建て替えを行い新たなスタートをしています。日本医療機能評価機構から平成22年5月にVer.6の更新を受けました。一般病棟120床、(看護体制10:1)療養病棟60床(実質稼働31床、看護体制20:1)です。当院の特徴はNSTの充実に向けて日本経腸栄養学会(JSPEN)と、日本栄養推進協議会(JCNT)からの認定により院内の充実を計り、周辺の医療機関との情報共有を目的に研修会を開催していることです。また、看護部は職員の質向上に向けて認定看護師を現在2名・今年研修1名と計画的な育成に努め、4月からは訪問看護、365日リハビリテーションを開始しています。地域の中核病院として地域住民は勿論、井原医師会の先生方や近隣の病院からも期待されています。

院長の方針を職員1人ひとりが共有し、病院の「ミッション」「ビジョン」をもとに各部署が年間計画を「BSC」で表し、スタッフが「一丸」となり楽しくやりがいを持って病院づくりに取り組むことが一番必要であると思います。職員一人ひとりが支えあって医療の質を絶えず高めると共に、一步一步前進し継続して行くことが生き残れる病院に繋がると思います。

日本医療マネジメント学会 第11回岡山県支部 学術集会シンポジウム

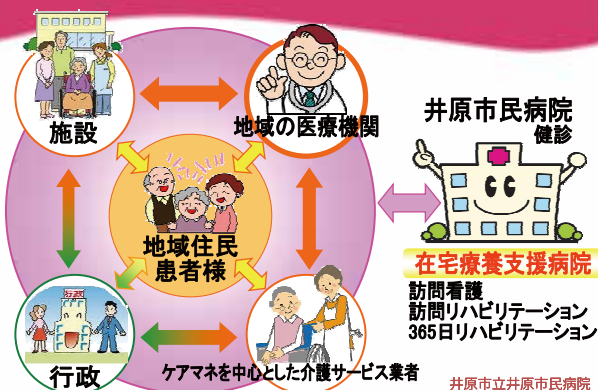
2012年9月29日(土)

地域医療の今後

地域で生き残れる病院づくりとは
～看護師の立場から～

井原市立井原市民病院
副院長兼看護統括 平井 千枝子

井原市民病院と地域との連携システム



忘年会 (平成24年12月19日) 116名参加

忘年会において、事業推進に貢献のあった1名・2部門に院長表彰がおくられました。

功 勞 賞

リハビリテーション科 殿

貴部署は、常に前向きに、常に病院のことを考え業務に精励いただいております。また、本年度より開始した365日リハビリテーション、従来の訪問リハビリテーションの受け入れ強化等、当院の機能及び収益向上に大きく寄与いただきました。

その働きは、全職員の模範であります。

よってここに表彰状を送り、その功績を称えるとともに、衷心より感謝の意を表します。

平成24年12月19日

井原市立井原市民病院
院長 山田 信行

アイディア賞

片岡 紀江 殿

あなたは、本年度実施した「職員アイデア募集」において、高い改善意識により、患者の視点に立った、また、当院の業務運営上、非常に有益な提案をいただきました。

ここに表彰状を送り、その功績を称えます。

平成24年12月19日

井原市立井原市民病院
院長 山田 信行

敢 闘 賞

看護部 (外来係) 殿

貴部署は、平成24年11月18日に開催した「第2回井原市民病院健康まつり」において、行事を盛り上げるすぐれた展示をいただき、当院が目指す「地域に開かれた病院」作りに大きな功績がありました。

よってここに表彰状を送り、感謝の意を表します。

平成24年12月19日

井原市立井原市民病院
院長 山田 信行

行事食

入院生活において食事は、治療の一環ではありますが楽しみのひとつです。

当院では、新鮮な旬の野菜を使用し、手作りで温かみがでるよう心がけています。

入院生活にメリハリをつけるために、お正月のおせちに始まり、七草粥、節分、お雛様、春の彼岸、こどもの日、土用の丑の日、敬老の日、秋の彼岸、十五夜、冬至、クリスマス、大晦日、と年間13回の行事食にカードを添えて季節感を味わっていただいています。

《クリスマス》



ハンバーグ 星型人参グラッセ
野菜サラダ
洋風スープ
ケーキ

《正月》



雑煮
おせち（かすのこ、
黒豆、かまぼこ、き
んとん、魚錦茶巾、
絹さや）
なます
みかん



お雑煮の食べれない患者さまには、お餅に似たあんペイ君（やわらか食）を使用した汁物で雑煮気分を味わっていただきました。

一年の計は

あべ こうぞう

新しい年が始まり、もう何日も過ぎました。今年はどんな一年になるのでしょうか。

ところで、皆さまはどんなお正月を迎えられ、そして過ごされたのでしょうか。お子さんやお孫さん達とご一緒に新年を迎えられ、さぞ改まった気持ちで過ごされたことでしょうか。

さて皆さま、「一年の計は元旦にあり」と申しますが（その意味は、ある辞書には「その歳を立派に過ごそうと思うなら、まず元旦の心構えが必要」とありました）、今年はどんな計（計画）をお立てになられ、どんな誓いをなされたのでしょうか。そして家族の皆さまと一年の計（目標）についてお話されたのではないかと・・・。

とは申せ皆さま、今ではどこのご家庭でも計を立てるところか、すっかり忘れられているのではないかと推察しておりますが、如何でしょうか、図星でございましょうか。

折角、除夜の鐘を聞きながら、今年の反省と来年への期待と抱負を待たれたのですから、明けた新年には新たな目標を確りと打ち立てることが要かと思えます。自分だけ心の内に秘めるのも良いですが、やはり家族の中で披露することが更に良いでしょう。そうすることで家族にチェックされたり、助けられたりするでしょう。これが家族の結び付きであり、絆へと繋がるはず。

日本人には節（ふし）とか節目（ふしめ）とか申して「くぎり」とか「かわりめ」とかに用いますが、正に元旦がその最たる節の一つでありましょう。入園・卒園式、入学・卒業式、誕生日、成人式、結婚式、就職等もそうですが、自分で決心した節もあり、こうした折り折りの節目に何回か誓いを新たにされたことでしょうか。

子どもの頃、お正月の行事（冬休みの宿題）の一つとして書き初めと言うのがあり、長い半紙に「一年の計は元旦にあり」と墨を摺って毛筆で清書したものでした。習字に一生懸命で心は何処へでしたが。

どうでしょうか、今から来年の事を言うには余りにも早急で鬼も呆れて笑えないでしょうから申しますが、来年のお正月には「一年の計は元旦にあり」を実行されて、家族の団欒に加えて頂ければと思う次第です。

編集後記

新聞作成を受けて1年が経ちました。愛する当院を皆様にとの様にお伝えすれば、全職員の思いが届けられるのか「あーでも、こうーでもない」の繰り返しの中（ヒラメキ）に助けってもらって出来ているのが現実です。新年号が旧正月発行になりそうです・・・宜しかったら感想をお知らせ頂ければ幸いです。

（平井）